

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

三方五湖に浮かぶ天空テラス整備計画～自然・人・文化をつなぐ天空の架け橋～

2 地域再生計画の作成主体の名称

福井県三方郡美浜町及び三方上中郡若狭町

3 地域再生計画の区域

福井県三方郡美浜町及び三方上中郡若狭町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

山頂公園に通じる有料道路レインボーライン（昭和43年開通）は、売店やリフトの設置が進み、1991年度には100万人を超える観光客が訪れていたが、年々利用者は減少し、2017年度は約28万人まで落ち込んでいる。県内有数の観光地でありながら、入込客が大きく減少しており、周辺の観光施設や漁家民宿にも影響を与えるなど、地域全体への経済的影響が大きい。

レインボーライン山頂公園は、①絶景ポイントでありながら、風雨をしのぐ施設が少ないため、気温や天候によって観光客数が大きく落ち込む（来場者数2017年5月（気候がよい時期）＝約2.1万人、2018年1月（冬季）＝約0.2万人）。②くつろげる場所が少ないため、平均滞在時間が約30分と短く、訪問者一人あたりの売店等での消費額は約460円と少ないことが大きな課題となっている。今後、滞在時間を延ばし、消費額を増やすには、山頂公園でゆったりとくつろげるスペース、カフェ機能を設けることが必要である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

両町においては、人口減少や少子高齢化の急速な進行により、観光入込客の減少、民宿や飲食店等の事業者の後継者不足など、地域産業の弱体化に直面している。これらの課題を解決すべく、両町にまたがる三方五湖周辺の観光資

源の付加価値を高め、新たな集客地域、集客層を開拓するとともに、観光消費の増大を図る必要がある。

本事業では、県内有数の観光施設であるレインボーライン山頂公園を、年間を通して楽しめる魅力ある施設に整備し、周辺の観光・文化施設や観光や商工等の関係団体、他自治体との連携を図りながら、まちの賑わいと交流人口の増加、定住人口の増加を目指す。

2018年の舞鶴若狭自動車道三方五湖スマートIC開設により、レインボーライン山頂公園へのアクセスが向上したほか、2023年の北陸新幹線県内開業時には、観光客を敦賀から西の福井県嶺南地域全体に誘客するための拠点として山頂公園が担う役割は大きく、この機会に施設を整備することは、観光客誘致、交流人口拡大を図る千載一遇の好機である。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2019年度増加分 1年目	2020年度増加分 2年目
整備する山頂カフェおよび山麓レストランの売上(千円)	13,250	0	10,000
山頂カフェや展望建屋を整備するレインボーライン山頂公園の入園者数(人)	125,430	0	40,000

2021年度増加分 3年目	2022年度増加分 4年目	2023年度増加分 5年目	KPI増加分 の累計
5,000	5,000	5,000	25,000
30,000	30,000	30,000	130,000

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

三方五湖に浮かぶ天空テラス整備計画～自然・人・文化をつなぐ天空の架け橋～

③ 事業の内容

四方に湖・海が眺められる稀有な立地特性、恋人の聖地として愛を繋いできた場所として、また若狭地域が古くは御食国（みけつくに）として交易の拠点として栄えた歴史を踏まえ、「自然と人と地域を繋ぐ」をコンセプトに、人々が集う観光交流拠点として整備する。

具体的には、全天候型・滞在型の観光交流拠点とするため、山頂公園内には屋根付きの「山頂カフェ」と「展望建屋」を設置し、景観を楽しみながらゆったりとくつろげるテラススペースを設ける。山頂カフェでは軽食や飲み物を販売し、売上は年間5,000千円以上を見込んでいる。

レインボーライン駐車場に位置する山麓レストランを増築する。現在の山麓レストランは収容人数20名であり、年間28万人が訪れる場所としてはあまりにも狭いため、より多くの観光客が座って食事や休憩ができるスペースを設ける。また、増築に合わせて、地元の食材を使った四季折々のメニュー開発にも取り組み、観光客への地域の特産品PRと、町の農林水産物および加工品のブランド力向上、地域の農業や漁業の活性化も図る。山麓レストランでの売上は、年間10,000千円以上を見込んでいる。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【官民協働】

三方五湖周辺にある観光・文化施設（福井県年縞博物館、道の駅など）や、桂由美ブランドのウェディングドレス製造会社、地域資源を活用した体験型・滞在型イベントに取り組む一般社団法人若狭路活性化研究所、インバウンドや婚活事業を強化しているホテル水月花、交通事業者などと連携し、官民一体となってレインボーライン山頂公園を拠点とした周遊観光促進やイベント、イメージアップに取り組み、地域活性化を目指す。具体的な取り組みは次のとおり。

「美浜町・若狭町」

本事業による整備主体は株式会社レインボーラインであるが、(株)レインボーラインへの出資者でもある美浜町と若狭町で折半して整備費を補助する。整備後についても、美浜町・若狭町と(株)レインボーラインが連携し、山頂公園を活用した誘客拡大や地産地消の促進等による農業・漁業の活性化に取り組む。

「三方五湖広域観光協議会」

美浜町と若狭町および両町観光関係者で組織する三方五湖広域観光協議会では、本整備により全天候型・滞在型となるレインボーライン山頂公園を中心とした周遊ルートを構築し、周遊促進キャンペーンやイベントを開催する。また、(株)レインボーラインと連携して、旅行会社への営業や商談会に積極的に参加し、誘客拡大に向けた一層のプロモーション活動を行っていく。

「(株)レインボーライン」

(株)レインボーラインでは、整備する山頂カフェおよび山麓レストランで販売する、地元食材を使ったメニューの開発に着手する。地元農家・漁家から農林水産物を買取り、地産地消の推進に努める。レインボーライン周辺の観光・文化施設や宿泊施設と連携し、周遊観光ルートへの組み入れや誘客促進に努める。

「(一社)若狭路活性化研究所」

地域資源を活用した体験型・滞在型イベントに取り組む一般社団法人

若狭路活性化研究所と連携し、レインボーライン山頂公園を活用したスポーツイベント（若狭路センチュリーライドなど）を開催して施設の周知を図り誘客に努める。

「交通事業者」

レインボーライン山頂公園へのアクセスは自家用車または観光バスがほとんどであるが、電車利用者や自家用車を運転しない方のアクセス向上のため、地元の交通事業者と連携し、おすすめの観光地を巡る貸切観光タクシーを運行している。

これら官民が連携し、レインボーライン山頂公園の利用促進および周遊促進を図り、四季折々のイベントを仕掛け、山頂公園リピーターの確保にも努める。

【政策間連携】

「三方五湖エリア全体の活性化」

2023年の北陸新幹線敦賀開業を見据え、2018年5月に美浜・若狭両町、県、地元観光協会、商工会、農協、漁協、三方五湖自然再生協議会らで「三方五湖エリア全体協議会」を設立し、レインボーライン山頂公園を含む、三方五湖周辺地域の観光や自然、農林漁業等の資源の活用と保全を両立させ、持続可能な地域づくりを行うための「三方五湖エリアステップアッププログラム」を作成中（年度内に取りまとめ予定）。地域資源を持続的に保全・向上させるとともに、交流人口の拡大を図り、地域の活力向上と定住人口の増加にも繋げていく。

「観光」

山頂公園を整備することにより、美浜町および若狭町における観光客の増加や観光消費額の増加、近隣の自治体を含む周遊滞在型の広域観光の推進に繋げる。

「農業・漁業」

山頂カフェ、山麓レストランでは両町の特産品（鯖のへしこ、梅など）を使ったオリジナルメニューを開発し、提供する。これにより地産地消を促進し、農業や漁業を活性化させることで、一次産業の後継者を確保するほか、一次産業への従事希望者の定住促進にも繋げる。

三方五湖で行われている伝統的な漁業や湖周辺で営まれている農業を次世代に繋ぐために三方五湖エリアの「世界農業遺産」認定を目指しており、地域資源に世界農業遺産として付加価値をつけることにより、農林水産業の保全に向けた意識の醸成、観光誘客に向けた三方五湖のブランド力強化に繋げる。

「結婚促進」

展望台や山頂カフェスペースを活用した結婚式や恋人の聖地としてのプロモーションを強化するとともに、出会いの場を提供するイベントを企画するなど、結婚適齢期の若者をターゲットとした交流促進に繋げる。

【地域間連携】

「美浜町・若狭町」

本事業による整備主体は(株)レインボーラインであるが、(株)レインボーラインの出資者でもある美浜町と若狭町で折半して整備費を補助する。整備後も両町ともに(株)レインボーラインの経営に携わり、山頂公園を活用した誘客拡大等に連携して取り組む。

また、(株)レインボーラインを含む、両町や両町の観光関係者で構成する三方五湖広域観光推進協議会として、広域な連携を強化してエリアのPRや観光誘客、観光資源の磨きあげなどに取り組んでいる。本事業により全天候型・滞在型の施設として整備した山頂公園を周遊観光ルートに組み入れ、旅行会社などへのPRを強化していく。

「福井県との連携」

山頂公園を全天候型・滞在型観光地として福井県を代表する観光拠点

施設と位置付け、全国規模の誘客促進イベントや海外商談会などで、積極的にプロモーションを行い、誘客促進と福井県全体の賑わいに繋げる。

「美浜町・若狭町と隣接する市町との連携」

福井県嶺南地域の他の自治体（敦賀市・小浜市・おおい町・高浜町）とも連携し、各市町の地域資源を結び付けた周遊観光を効果的に行う。

「関西・北陸自治体との連携」

インバウンド拡大に向け、関西や北陸各県とも連携し、観光ルートの造成についても検討していく。

【自立性】

2017年12月に、これまで美浜・若狭両町長が務めていた(株)レインボーラインの社長として、民間リゾート会社で実績のあった者を登用し、この1年で観光客のニーズに応じたスピーディーな運営が行われることにより、レインボーラインの通行台数や山頂公園の利用者数が増加している。

整備する施設の収入については、飲食メニューの年間売上額として、山頂カフェが5,000千円、山麓レストランは10,000千円以上を見込んでいる。既存の山麓レストランの2017年度売上は9,440千円であり、本整備で増築することにより、更なる集客が見込めるほか、(株)レインボーラインは地産地消による地元食材を活用した四季折々のメニュー開発にも意欲的であり、更なる売上アップも期待できる。

また、山頂公園への入園料（大人800円、小人600円）を徴収しており、2017年度の入園料売上は年間88,524千円である。山頂公園に全天候型で魅力的な施設整備をすることで、年間を通じて入園者が増加し、年間100,000千円以上を見込んでいる。これらのことから施設に係る光熱水費や食材費、修繕費など自立的な維持管理は十分見込まれ、施設の安定的かつ継続的な運営が可能である。

- ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））
4－2の【数値目標】に同じ。

- ⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、3月末時点のK P Iの達成状況を若狭町、美浜町の観光担当部署が取りまとめ、両町の観光関係者で組織する「三方五湖広域観光協議会」において、P D C Aサイクルに基づき検証する。

【外部組織の参画者】

三方五湖広域観光協議会を構成する委員（両町長、(株)レインボーライン、両町観光協会、わかさ東商工会、福井県道路公社、三方民宿組合協議会、レインボー観光自動車(株)など）や議会の関与を得ながら、検証結果報告をまとめる。

【検証結果の公表の方法】

両町のホームページ等で公表する。

- ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】
総事業費 311,402千円

- ⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2024年3月31日まで

- ⑨ その他必要な事項

特になし

5－3 その他の事業

5－3－1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 三方五湖広域観光協議会事業

ア 事業概要

三方五湖周辺の観光開発と観光客誘致を図り、魅力的で活力ある元気な美浜町・若狭町をつくるため、広域的な取り組みを展開する。

季節イベント、レインボーフェス、出向宣伝、広告宣伝、マップ作成、通行料助成など

イ 事業実施主体

三方五湖広域観光協議会（構成団体：美浜町、若狭町、福井県道路公社、レインボーライン、若狭美浜観光協会、若狭三方五湖観光協会、わかさ東商工会、レインボー観光自動車、三方民宿組合協議会、ホテル水月花、常神海中公園観光、海のホテルひろせ、千鳥苑、みかた温泉きららの湯、若狭町観光船、ミハマランド）

ウ 事業実施期間

2019年4月1日から2024年3月31日まで

(2) 株式会社レインボーライン事業

ア 事業概要

天空テラス等の新規施設を活用した観光イベントの実施、またレストランや新設されるカフェでは、地元食材を活用した料理やデザートを販売し、新たにメニュー開発を行う。

イ 事業実施主体

株式会社レインボーライン

ウ 事業実施期間

2019年4月1日から2024年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2024年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部有識者の参画】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥に掲げる【検証結果の公表の方法】に同じ。